
会 議 報 告

事業名	新型コロナウイルス対策本部会議（第21回）		
日時	令和3年8月31日（火）13:30～14:30	場 所	本庁2階 大会議室
出席者	【三役】（本部長）座間味秀勝、（副本部長）神里敏明、新崎直昌 【総務課】金城満、小久保栄太郎、伊禮梨美 【観光産業課】玉城広喜 【民生課】新垣聡、尾崎リサ 【会計課】宇野昭子 【教育委員会】小嶺国土 【船舶課】我喜屋元作 【議会事務局】新里武広 【渡嘉敷診療所】山城啓太 【村議会議長】玉城保弘 【交流の家】音野敬子 【商工会等】新垣徹、知念優、平田春吉、山城忍、関根史郎（計21名参加）		
会議内容	<p style="text-align: center;">村営定期船の運航態勢等について</p> <p>： 1年半新型コロナウイルス感染症に翻弄されている毎日となっております。生命、健康そして経済が脅かされる状況が1年半以上続いているという状況がございます。そのような中ですが、本村においては去った5月に1名の感染が確認されておりますが、その後これまでのところの感染者というのは確認されておられません。これについては村民一人一人が感染防止対策に努めていただいている結果であると思っております。感謝を申し上げます。</p> <p>早速本題に入っていきたいと思えます。まず、特措法に基づく緊急事態措置が5月23日から当初は6月20日までとされていましたが、これが沖縄県に発出されて以降4度の延長で9月12日までとなり宣言期間が113日間に及んでおります。8月25日には新規感染者数が809人となり沖縄県が感染急拡大を踏みとどめるための対処方針を打ち出しております。その中で、感染者を減少させるため、人流を抑制し混雑した場所への外出を半減しなければならないとされております。村としては村民の生命と健康そして経済を守るためこれまで感染防止を図りながら観光客を受け入れておりますが、デルタ株については空気感染すると言われるほど感染力が増し、若者や小児の中症例も発生しております。また、コロナ患者を受け入れている沖縄本島の県立病院の医療体制もひっ迫した状況で、沖縄県医療非常事態宣言も出されております。去った29日には自宅療養者が3000人を超える状況となっております。残された12日間で緊急事態宣言の解除は非常に厳しいのではないかとこのような認識を持っております。</p> <p>本村においてはコロナ患者に対応できる医療体制は十分</p>		

ではなく、県内医療体制のひっ迫を考慮し、更なる感染防止の取り組みが必要と考えております。このため、感染拡大に繋がる混雑を防ぐ対応として、緊急事態宣言期間中の村営定期船の旅客定員を半減する措置を講じる考えであります。村民の生活や経済への影響を配慮し、既に受けている予約については、半数を超えていても削減はせず今後受ける予約について緊急事態宣言期間中、定員の半数までとしたいと考えております。また、半減措置は、今後さらに緊急事態宣言期間が延長された場合は、それに合わせて行うという考えであります。

本日は、各団体を代表してご参加されている皆さまには、この措置についてご意見等ございましたら、遠慮なくご発言くださいますようお願いいたします。

- : 8月26日・27日に電話にて商工会会員の方に船の運航について、現状維持か対策が必要かというヒアリングを行いました。全77事業所中48件の会員さんから回答が有りました。営業形態に関しては資料をご覧ください。ヒアリングの結果、Q1で「今後の船舶運航に関して率直な意見をお聞かせください。」という質問をしました。現状維持と対策が必要の意見が半々という結果になっています。回答者からの具体的な意見は資料をご覧ください。
- : 隣村で感染が爆発していますので、我々も何か手を打たなければならないと思います。やはり島民は船に乗って移動する時が一番不安だと伺っている。前回、座席を1つずつ空ける対応をされていたので、ああいった対応で対策できないかと思います。
- : ワクチンの接種証明書が発行できないか。
- : 議長と同じような意見にはなりますが、やはりソーシャルディスタンスの観点から、席を空けるのと定員の半減といった対応はやっていく必要があると思います。
- : 観光協会もリサーチはかけたが、商工会員とメンバーが被ってるため同じ意見になる。個人的には発生した後の情報が流れていないように感じる。去年とやり方が変化していると思う。現在は沖縄本島に患者を送れないと思うがそういった情報が観光協会には来ていない状態。村内でコロナ

患者が出た場合、我々観光業者はどういった対応をしたら良いのか等のシミュレーションを作って観光協会の会員等に流すのも必要じゃないかと思う。

: 定員の削減それだけでいいのではないかと思う。座間味村はコロナ患者が出ているようだが、それでも定員削減で終わっているのだからこちらも定員の削減のみで考えて欲しい。

: 交流の家は村の対応に沿う形で対応していきたいと思っています。

日帰り客は受け入れているが、宿泊客の受け入れは停止している状態。今後9月から11月までに受け入れている団体が30団体以上入っている状態で利用者の合計が2000人になっているが、村の対応に沿ってそれによっては日帰り客の受け入れのみへの変更も考える。

: 医療的な面からすると、人が動かない方がリスクは減るので船の定員を減らす対応をしてもらった方がよりリスクが低くなるので良いのかなと思います。

: 実際に人数を減にした場合の今後の見通しですが、予約の状況として定員の半数を超えているのは高速船が10月13日に122名、フェリーはなしとなっているので、すぐに影響が出るというわけではないとは思いますが、アピールをするという面もありますので実施をしていきたいと思っています。

: その場合、村民のチケットの確保はどうなりますか。座間味村の場合は、村民の分は確保したうえでの半減という形をとっていると聞いています。

: これまで、半減したときに村民が乗れなかったことが無かったですし、現時点の予約の人数からしても乗れなくなることは無いと思います。

: 予約自体は半数までで止めておいて、実際その日に村民が島から乗るという場合については受け入れるという方向で構わないのかなと思います。

先ほどありました、コロナ患者が発生した場合の現時点での検討状況を小久保君のほうから説明をお願いします。

患者が発生した場合の流れなんですけど、搬送フロー図に関しては昨年度作成しましてしております。それにのっかって動く事には変わりはありません。PCR 検査を受けて陽性という判定を受けた方のみ、県の代わりに村のほうで手伝って搬送の手助けをするということになります。

現在、県内での感染拡大の状態です。医療機関等の受け入れが出来ない状況が続いているというなかで、自宅療養者が増えてきています。それに関しては医師、保健師、総務課、民生課で検討中です。

それから、皆さまのところに情報をお渡しできていないのは、確定的なものをお渡しすることが出来ないというのが現状です。どういった方がどういった状況でいるのかわからないのでそれを全て踏まえたうえでその時に判断しなければならない状況があります。なので決まったものを揃えてお渡しすることが出来ない現状なのでご理解いただければと思います。

観光客の受け入れについてですが、現在どこで誰がコロナに罹ってもおかしくない状況であることをわかって欲しい。各事業所の皆さんも出た場合の確認等はしていた方が良いのかと思います。

それから、座間味の医師からの情報共有ですが、感染者は観光業の人が多くて、若くて普段マスクしていないが罹っている。座間味の場合、感染者が軽症なので自宅療養で済んでいるが、渡嘉敷でもそうなるとは限らない。特に観光業、接客業の方たちは感染対策を再確認して欲しい。また、座間味で濃厚接触者を正直に言わないという事例があったので、正直に報告して欲しい。

また、現段階での感染症対策としては定期船の半減だけで良いかと思われるが、今後感染者が出た場合は、高速船を止めることや、フェリーの時間を変更するなどして対策を取らないといけなくなるかもしれないので、今後の感染状況等に応じて、再度対策会議を開いてもらって対応していかなければいけないと思う。

商工会会員さんからの情報提供があり、若いバイトの方達のノーマスクが結構いるという話があり、商工会から再度感染対策を徹底するように文書を回しています。ワクチン接種が進んで感染対策が少し緩んできているような気がする。事業者も初心に戻って感染症対策を再度確認する必要がある。

【今後の本村の取り組みについて】

- 緊急事態宣言期間中の村営定期船定員の半減。